

II 特別連載 II

科学技術 振興機構 『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

第274回

2020年初旬以降、新型コロナウイルスの感染拡大の影響による海外からの渡航制限のため、さくらサイエンスプログラムでも招へいが実施できない状況が続いている。科学技術振興機構(JST)では、これまでの交流により醸成された海外の送出し機関と日本の受入れ機関の良好な関係を継続させるため、また新たな交流に向けた準備のために、各機関によるオンラインプログラムへの支援を続けている。今回は2大学(熊本大学および大阪府立大学)からのレポートを紹介する。

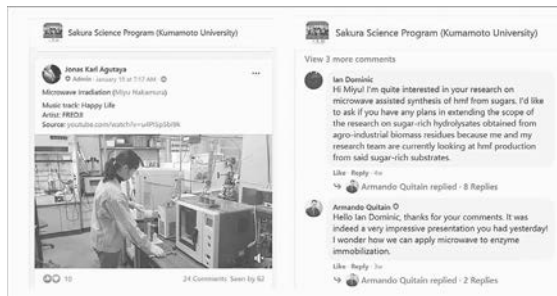
熊本大学の活動報告



キヤイン・アルマンド (熊本大学 大学教育統括管理運営機構・グローバル教育推進室教授)

SDGs 達成のための バイオマス有効利用

今年1月18日から22日までの5日間、10カ国(メキシコ、ブラジル、アルゼンチン、コロンビア、フィリピン、マレーシア、インドネシア)から合計16名(学生13名、教員3名)に参加いただき「SDGsの目標達成のためのバイオマス有効利用に関する異文化・集学的交流」というテーマでオンラインで実施しました。



Facebookにて動画で紹介された実験及びディスカッション

◇Zoomでの活動 18日にはオンラインセッション、20日には国際シンポジウム、22日にはラップアップミーティングを次の通りZoomで実施。オリエンテーションでは、招へい者の居住国や大学の紹介、熊本大学の紹介(歴史、境域、研究)、留学案内、意見交換を行いました。20日のオンラインでのミニ国際シンポジウム「International Symposium on Green Chemistry and Engineering: Multidisciplinary and Multicultural Exchanges Towards the Attainment of the UN Sustainable Development Goals」では、招待講演3件を実施したほか、各参加者の研究について口頭発表がありました。質疑応答を通して、研究分野に関するディスカッションを行い、本学の大学院生による口頭発表を通して、さまざまな研究分野に関する興味深い聴講しました。また、本学グローバルリーダーコースの学生による異文化交流も行いました。22日のラップアップミーティングでは、バ



バイオマス有効利用研究ネットワーク、SDGsの目標達成に向けたディスカッション・ラップアップ

臨界水実験でした。過去の参加者は、これまでの本プログラムでの経験、その後の再来日について意見を発信してくれました。フェイスクラス上ではありますが、活発な意見交換ができており、今後の研究活動、交流活動への良い刺激になったようでした。

◇FBでの活動

19日には熊本大学の研究室とその実験動画、21日には2014年からさくらサイエンスプログラム参加者のビデオメッセージをフェイスブック(FB)上で共有し、日本人学生と招へい者、過去の参加者の意見交換を行いました。研究室動画で紹介された実験は、マイクロ波実験、パルスパワー実験、亜ガス分離実験、亜



大阪府立大学とベトナムのダラット大学で、Zoomによるオンライン交流

② 工学研究科量子放射線系専攻3年 ヴォコンカンさん
オンラインでの交流会でしたが、最高の思い出になりました。さくらサイエンスプログラムが、私に新しい知識を身につけ、知識を広げる機会を与えてくれたことにとっても感謝しています。このような機会を得られる学生が増えることを願っています。

◆ 学生のコメント
① 工学研究科量子放射線系専攻3年 ファムチフォンタオさん
他大学の教授や学生と知り合い研究分野の情報を得ることができ、とても良い機会になりました。また、古田教授の講義は私にとっても有益で興味深いものでした。2つの国、2つの地域の文化交流ができればもっと面白くなると思います。

低エネ電子線、X線による
放射線滅菌システムの構築
今年1月25日、大阪府立大学とベトナムのダラット大学で、Zoomによるオンライン交流会を実施しました。今回の交流はさくら



古田 雅一
(大阪府立大学 大学院工学研究科 放射線系専攻教授
量子放射線センター 放射線研究センター長)

大阪府立大学の活動報告

イオマス有効利用に関する共同研究に向けて、ラテンアメリカ・ASEAN・日本間のバイオマス有効利用研究ネットワークおよびSDGsの目標達成への貢献のディスカッションを行いました。4〜5人のグループで意見交換を行い、意見をまとめて、全体へ向けに発表してもらいました。活発な意見交換になっていたようです。
全体を通して、日本の学術的・技術的役割

が強化され、交流地域との研究協力が促進されたようです。オンラインという新しい形での開催でしたが、オンラインの特徴を活かし、動画やスライドをふんだんに利用し、多くの国からの参加者による活発な交流が行われました。最後に、本プログラムを実施するにあたり、多大なご支援をいただきました。さくらサイエンスプログラム関係各位に深く感謝いたします。

サイエンスプログラムの支援で行われ、大阪府立大学からは7人、ダラット大学からは10人が参加しました。

午前の部ではそれぞれの大学の紹介、さくらサイエンスプログラムの事業概要が共有され、午後の部では実験のデモンストレーションと各大学2名の研究発表、今後の連携に向けてのディスカッションが行われました。

元々は対面交流において予定していた、大腸菌の殺菌効果を調べる実験を実施しました。当初は本学のコバルト・60ガンマ線照射施設を利用する予定でしたが、オンラインのためより分かりやすい紫外線ランプを用いた実験に変更して行われました。また研究発表においては、お互いの学生の知識の共有が図られ、将来の共同研究や留学希望を刺激するきっかけになったのではと感じました。

今回のオンラインでの交流により、将来の来日に向けお互いの理解を深め、共同研究に必要な知識を共有することができました。また、新たな留学生の受入や大阪府立大学生の国際意識の向上につながるよい機会となりました。以下、参加した学生のコメントとプログラムを付記します。